

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	漢字学習はある程度定着しているが、漢字の読み書きの得意・不得意の生徒の二極化が見られる。家庭学習や繰り返し練習の習慣があまりついていない。また、文字を丁寧に書くという意識の低い生徒が多い。	漢字テストを定例化することで、読み書き練習を徹底させ、達成感と学習速度を上げる。また、漢字練習ノート、ワークやノートの提出を定期的に行っていくことで、家庭学習と繰り返し練習の機会を習慣化させていく。	○
社会	基礎的・基本的な知識や技能を習得できている生徒とできていない生徒の差が大きい。学習自体への意欲は比較的高いが、学力差による学習への参加が困難な生徒が多くなっている。	授業内で小テストや単元ごとの復習など、振り返りの時間を取っていく。また、ICT 機器を活用して、主体的に学ぶ態度を引き出すなど、意欲が学力に結び付くような適切な支援を行う。	○
数学	応用問題も様々なアプローチから問題を考えることができる生徒がいる一方で、そもそも基礎・基本的な計算ができない生徒も多い。また、基礎ができていないため数学に対して苦手意識を持った生徒が多い。	教科書の導入だけではなく、生徒の実体験に近い事例を各単元の導入に多く取り入れることで、興味や関心をもちやすくする。授業の初めの小テストで生徒の習熟度を確認することで、実態に合った授業になるよう取り組む。	○
理科	積極的に授業に参加しようとする生徒が多いが、小学校から現在までの基礎的・基本的な知識や技能を習得できていない分野や応用問題では苦手意識が高い。観察・実験には意欲的に参加する生徒が多くいる。	観察・実験に制限があるが、ICT 機器や演示実験などを効果的に使い、視覚的にわかりやすいような指導を行っていく。また、繰り返し学習を行うなど、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けていく。	○
音楽	COVID-19 の影響により、音楽の基本的活動である表現(歌唱)活動がほぼできないている。もちろん歌唱や楽器演奏だけが表現ではないので工夫のしようは多々あるが、基本の歌唱合唱ができていないことはかなり大きなことであるし、如何ともしがたいことである。	やはり授業を進めていく上で歌うことができないということは、指導にもかなり影響を与えており、音楽を語る上でもかなりの片手落ちのような状況になってしまう。なかなかベターな方法も見つからないので、試行錯誤で進めていることが現実である。	△
美術	課題ごとにアイディアノートを活用しながら個々の制作状況を把握し、改善を図ってきたが、努力を要する生徒やなかなか制作が進んで行かない生徒に寄り添いながら、技能や発想の能力を高めていく指導の工夫が必要である。	生徒が自主的に制作中の質問や要望等を記入する、制作ノートを活用し、授業中の観察だけでは不十分な個々のつまづきの状況を把握する。また、個に応じた資料を効果的に活用し、発想が豊かに育めるよう指導する。	○
保健体育	コロナによる影響で、基礎体力、基本動作の定着に差が出てきている。体力向上が著しい時期なので、運動量の確保をすること、最低限身に付けさせたい基礎体力を補強運動で定着させる必要がある。	授業の進め方は、毎時間繰り返し行える内容にして、説明時間を短縮し、運動時間を確保する。また、生徒の基礎体力を確認しながら、補強運動の種類や回数の設定をし、毎時間取り組ませる事で定着を図る。	○
技術家庭	製作において、技能の差やわからない点を自ら聞くことのできない生徒の進捗差が出る。(家庭) 実習においては興味のあるものとそうでないもとで取り組み方に個人差があり、技術・技能の習得に大きく影響している。(技術)	製作カードに本時の目標や自らの課題点を書き、進捗における差を意識させる(家庭) ワークシートなどを活用し、製作段階を細かく行程ごとに分け、同じ進捗で活動できるように一斉指導と個別指導を組み合わせる授業を行う。(技術)	○
外国語	概ね授業への参加意欲は高く、特に聞く・話すことに関しては、積極的に取り組む姿勢がみられるが、書くことについては努力を要する生徒が一定数いる。	書くことに対して抵抗感が生まれないように、適宜選択肢や単語のレベルからスモールステップで取り組めるように工夫する。また、書きたいという意欲を引き出せるよう生徒にとって身近な話題をなるべく取り入れていく。	○